

レジメンcode:	C99-18
適応がん種:	天疱瘡
レジメン名:	リツキサン
間隔:	2週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	リツキサン	1000	mg/body	点滴[*1]	d1

day1

1) カロナール	200mg	2錠		
d-クロルフェニラミン		1錠		
	内服		リツキサン投与30分前	

day1

1) ソル・メドロール	125mg	1本		
生食	50ml	1本		
	主管①	点滴	15分	内服前投薬、心電図確認
2) 生食	50ml	1本		
	主管②	点滴	30分	
3) リツキサン		1000 mg/body		
生食	900ml			生食で10倍に希釈
	主管③	点滴	[*1]下記	初回(表1)、2回目以降(表2)参照
4) 生食	50ml	1本		
				フラッシュ

〈所要時間 初回 約7時間〉  
2回目以降 約6時間30分〉

[\*1]最初の30分は50ml/時間で開始し、患者の状態を十分観察しながらその後30分毎に50ml/時間ずつ上げて最大200ml/時間まで上げることができる。

経過時間	点滴速度
0分	50ml/時間
30分	100ml/時間
60分	150ml/時間
90分	200ml/時間
～	〃
～	点滴終了

(表1)初回の点滴速度

次ページあり

**[\*1]初回投与時に発現した副作用が軽微であった場合**、100ml/時間まで上げて投与を開始し、200ml/時間まで上げることができる。

経過時間	点滴速度
0分	100ml/時間
30分	200ml/時間
～	〃
～	点滴終了

(表2).2回目以降の点滴速度

\*本剤の注入速度を守り、投与中から投与終了後1時間はバイタルサインのモニタリング、自覚症状の観察を十分に行なってください。

\*本剤の注入速度に関連して血圧下降、気管支痙攣、血管浮腫の症状が発現するので注入速度を守ってください。これらの症状は**注入速度を上げた直後に発現しやすい**ので、注入速度を上げた後は特に注意深く観察して下さい。

\***軽微から中等度の症状が認められた場合**、症状により**注入速度を緩めるか、投与の中断も考慮**してください。

また、**重篤な症状が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行なって下さい。**

投与を再開する場合は、**症状が完全に消失した後、中止時点の半分以下の注入速度**で投与を開始して下さい。

→患者の状態によっては、注入速度をさらに減じることも考慮してください。

\*本剤投与により、B型肝炎ウイルスの再活性化による劇症肝炎又は肝炎があらわれることがある。本剤投与に先立ってB型肝炎ウイルス感染の有無(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体検査)を確認し、本剤投与前に適切な処置を行なうこと。